

優良種苗供給促進事業（継続）

【平成22年度予算額 53,195（149,329）千円】

事業のポイント

地域に適応し生育してきた郷土樹種の供給を進めるとともに、花粉症対策苗木の生産量の増大を図るため育苗作業の省力化への取り組みを推進します。

また、花粉発生源対策として行うスギ人工林の伐採・利用や、少花粉スギや広葉樹の植栽を促進させるための協力金制度等の円滑な実施を図るための取り組みを推進します。

- ・ 少花粉スギ苗木の生産量は、約74万本（20年度）でスギ苗木全体の（約1,800万本）の4%程度に過ぎず、花粉発生源対策として、少花粉スギ苗木の供給量の増大を図ることが急務となっています。
- ・ 苗木生産の安定的な供給を担う苗木生産者の体質強化や、少花粉スギ苗木等の需要増加につながる魅力ある苗木づくりが喫緊の課題となっています。
- ・ 生物多様性の保全に配慮した森林整備、需要者ニーズに応じた苗木の生産・供給環境を整えることが重要です。

政策目標

少花粉スギ苗木等の生産量を平成24年度にはおおむね100万本に増大します。

生物多様性の保全や造林の低コスト化につながる苗木供給を充実します。

< 内容 >

1. 広域連携優良苗木確保対策

(1) 郷土樹種苗木確保対策事業

郷土樹種の苗木を確保するため、種子採取、精選等及び流通段階における産地・系統の表示を促進するとともに、需給バランスを確保するための調整、調査を実施します。

(2) 森林力増強苗木生産事業

多様な樹種について、苗木生産における育苗作業を省力化するための新たなテナ利用や、苗木の上長生長を促し育成期間を短縮した育苗技術等による苗木生産の先駆的な取り組みを支援するとともに、当該技術を普及するための研修会等を行います。

2. 花粉症対策林整備推進事業

花粉発生源対策として、首都圏近郊等におけるスギ人工林の少花粉スギ林や広葉樹林への円滑な転換に必要な調査・連絡調整等を行います。

< 補助率 >

定額

< 事業実施主体 >

- 1 民間団体
- 2 全国森林組合連合会

< 事業実施期間 >

平成22年度～24年度（3年間）

[担当課：林野庁研究・保全課]